

とってもやさしい アポイ岳ジオパーク講座 【第3回】

見どころは どこにあるの？ その2

観音山の展望台から海を眺めると、ローソク岩から親子岩、ソビラ岩、そしてエンルム岬へと、大きな岩が東西に一直線に並んで見えます。

大昔、地面が強い力で押されていくつかの割れ目ができ、その地面の割れ目に地下からマグマが上がってきて、冷えて固まってできたのが、それらの岩や観音山なのです。周りの軟らかい地面は風や波で削り取られましたが、マグマが冷えて固まった岩はとても固いので、削られることなく今でも残っているのです。

様似は江戸時代に会所が置かれるなど、早くに拓けた町ですが、それはエンルム岬が天然の港として絶好の地形になっていたためです。私たちの町の成り立ちには、そんな壮大な地球の営みが深く関係しているのです。

アポイ岳ジオパークの見どころを「ジオサイト」、ジオサイトが集まっている地域を「エリア」と言うんだよね。そのとおり！ 前回 は5つのうち2つのエリアを紹介したので、今回は残る3つのエリアを紹介するね。

Area A

ほろ まんきょう
幌満峡エリア

Horomankyo Area

多彩なかんらん岩がつくる峡谷



地球をゆで卵にたとえると、私たちの足元の地面は薄い卵のカラのようなもの。そして、地面の下には白身のようにマントルという物質がたくさんつまっています。そのマントルが地上に出てきたのが幌満の「かんらん岩」で、このような場所は世界的にもとても珍しいのです。

驚くことに、現代の科学技術を使っても、薄いカラのような地面を突き破り、マントルまで届く穴を開けることはまだできていません。でも、地上に出てきたマントル、つまり「かんらん岩」を調べれば、穴を開けなくても地球の中身のことを知ることができます。

地上にいながら、手の届かない地球内部をのぞくことのできる場所、それが様似の幌満峡。世界中の研究者が幌満に注目するのは、そんな理由があるからなのです。

冬島から幌満にかけての約6kmの断崖絶壁の海岸線が「日高耶馬溪」。大昔、日高山脈は2枚の「プレート」と呼ばれる地面の大きな板と板とがぶつかりあり、その境目がめくれ上がってできました。このエリアには、2枚のプレートの境目、すなわち日高山脈誕生の現場を見ることのできる非常に貴重な場所があります。

また、この付近は昔は波の引く間に海岸を走り抜けたり、崖をよじ登ったりしなければならぬ交通の難所だったため、江戸幕府によって断崖の上に「シヤマニ（様似）山道」が作られました。山道は今でもそのなごりをとどめており、いにしえの口マンを求めてこの道を歩く人々の姿が後を絶ちません。